

過去10年で2番目の低さ 8月の新設住宅着工

8月の新設住宅着工戸数(国交省発表)は6万3974戸(前年同月比6・1%増)で、5カ月連続の増加となった。ただ、伸び率は4月以降で最も小幅で、4月以降続いている前年の建築基準法改正による落ち込みからの反動増は薄れている。建築基準法改正の影響がなかった24年8月比では4・3%減、8月の着工戸数としては過去10年間で2番目に低く、着工増は続いているものの、今年8月の実需は過去10年間のなかでは伸び悩んでいるといえる。

利用関係別では、持ち家が1万7713戸(同1・0%増)で、5カ月連続増となった。伸び率は7月に比べて若干拡大したが、8月の着工戸数としては過去10年間で2番目に低く、建築基準法改正の影響がなかった24年8月比では9・6%減と落ち込みが大きい。貸家は2万8309戸(同6・5%増)、分譲は1万6838戸(同6・4%増)で、5カ月連続増となったが、7月まで続いていた2桁増は1桁増に縮小した。

分譲のうち戸建て分譲は1万182戸(同7・5%増)、マンションは6475戸(同5・3%増)。マンションは5月以降、前年同月比の伸び率の変動が大きい。全体として大規模物件の有無に影響されているが、国交省による聞き取りでは、資材価格や労務費の上昇に伴う建築費増加を受けて、取得する用地を厳選しているとの回答も一部であった。

木造全体は3万9392戸(同6・3%増)で、新設住宅の総数に比べて伸び率が若干大きい。その影響で木造率は61・6%(同2・1%増)に上昇し、今年初めて60%台になった。在来は3万694戸(同8・3%増)で、4月以降、新設住宅の総数以上の増加幅が続いている。2×4は7724戸(同0・9%減)で3カ月連続の減少となったが、減少幅は6・7月に比べ縮小した。2×4の利用関係別でも、7月は軒並み前年同月比減少となっていたが、8月は持ち家が同5・1%増、分譲が同2・4%増と増加に転じた。

季節調整済年率換算値は7万3000戸(前月比2・7%減)で2カ月連続の減少。

国産・輸入ともに減少 8月の合板供給

8月の合板供給量は37万8282立方メートル(前月比11・5%減)で2カ月連続の減少。このうち、国産合板は19万5399立方メートル(同16・1%減)、輸入合板は18万2883立方メートル(同6・1%減)でいずれも減少した。国産合板の出荷量は17万1879立方メートル(同19・6%減)と2カ月連続で生産量を下回った一方、期末在庫量は17万5811立方メートル(同15・5%増)と2カ月連続で増加した。国産合板のうち、針葉樹構造用合板の生産量は17万3012立方メートル(同17・5%減)で2桁減。厚み別では6ミル未満1241立方メートル(同18・4%減)、6ミル以上12ミル厚2万3842立方メートル(同11・8%減)、12ミル厚7万5420立方メートル(同19・3%減)、24ミル以上7万2509立方メートル(同17・2%減)で、4品目とも減少した。また、同合板の出荷量は15万816立方メートル(同20・7%減)、在庫量は16万4502立方メートル(同15・6%増)となった。

8月は盆休みもあり、稼働日そのものが少なかったことが、生産量減少の要因となっている。出荷量は稼働日の少なさに加え、木建ルートを中心に益明け以降の荷動きが鈍かったことが2カ月連続の減少につながった。一方、期末在庫量は稼働日が少なかったことか

国産材原木は集荷遅れる

針葉樹合板はメーカーが値上げ打ち出す 名古屋地区

名古屋地区内では9月の大雨の影響で国産材原木の集荷が遅れているが、製品需要の伸び悩みも重なって製材工場は当用買いを続けている。外材製品は、競合材の存在が価格に影響しつつある品目もある。国産材針葉樹合板は、プレカット工場での加工需要増加からメーカーが値上げを打ち出している。

国産材原木の新材が一定量市場に出そうなのは昨年同様11月以降になると予想されており、これを受けて役物を含む新材を挽いた製品が市場に出荷される

のも遅れる見通しだ。国産材製品需要は以前伸び悩んでいるが、記念市シーズンを迎えても各市場では集荷が難化している。大手市場の浜間屋は、同一品目でもサイズによっては一時的な欠品の発生を危惧している。また、価格を理由に羽柄材などで外材から杉への転換を指摘する声も聞かれる。

欧州材製品は、ビルダー向け住宅の加工を手掛けるプレカット工場への納材は堅調だが、価格志向が鮮明だ。ウッドの間柱や集成管柱は、国産杉の影響を

受けている。Rウッド集成平角は、羽柄材や集成管柱に比べると競合材が少ない。

米材輸入製品は、国内挽き大手の値上げを理由に米松平角が強基調だが、そのほかは保合。需要低迷で値上げは進まないが、産地側は新材については値上げ姿勢だ。

国産針葉樹構造用合板は値上げが進んでいないが、秋需を期待したメーカーの値上げ姿勢が明確になっている。引き合いが堅調なことから12、24、28ミルは強含みで、構造用3×6判12ミル厚、同24ミル厚ともに前月より値上がりしている。